

# 《塩尻市》 地域福祉推進センター

## 〔センターの基本事項〕

所在地	〒399-0786 塩尻市大門六番町4-6 塩尻市保健福祉センター2階			
電話 F A X	0263-52-2795	0263-53-5058		
電子メール	<a href="mailto:tiikibora-shakyo@cube.ocn.ne.jp">tiikibora-shakyo@cube.ocn.ne.jp</a>			
HPアドレス	—			
職員数	正規	6名	嘱託	3名
	臨時	—	その他	3名
開所日と時間	平日 8:30～17:15 土日祝を除く			
情報誌	ボランティアつうしん 年6回発行			
来所者数	年間 13,251名			



地域福祉推進センター  
窓口の様子

## 〔センターの運営方針・指針等〕

塩尻市社会福祉協議会の基本理念「みんなが安心して、しあわせに暮らせる地域づくり」、基本目標「ひろげよう夢、育てよう福祉のこころ～住民主体の福祉コミュニティの創造をめざして～」運営方針・指針としている。重点目標として、本年度から始まる第4次地域福祉活動計画「ささえあいしおじり福祉プラン」を实践し、より住みやすい地域づくりを一層推進する。

## 〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	無料、対象者：センターに登録いただいたボランティア団体・サークル
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	テーブル（4つ）イス（16脚）設置
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	印刷機・コピー機（有料）、プロジェクター・スクリーン等の機材（無料）、各種ゲーム用品等の遊具（無料） 対象者：市内で活動されるボランティア団体・市内の地域福祉活動を行う団体
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット、白杖、点字器、車イス、ユニバーサルデザイングッズ、DVDなど 無料、対象者：市内で活動されるボランティア団体、市内の地域福祉活動を行う団体、市内学校
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

## 〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	福祉のまちづくり推進委員会		
設立	昭和63年5月24日設立		
委員構成	社協役員 3名、社協支部 3名、ボランティア 2名、民生児童委員 1名、福祉団体関係者 2名、行政 2名 地域福祉の推進に熱意のある者 2名 計15名で構成		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

## 〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	塩尻市ボランティア連絡協議会		
規約は、	昭和61年11月8日に設立		
協議会構成	会長1名、副会長2名、会計1名、監事2名、理事5名の11名で役員を構成。ボランティア連絡協議会に加盟している21団体の代表者が幹事となり、運営委員を構成		
工夫点	あくまで、ボランティアの皆さんが主催の会であるため、企画・会議等を開催する場合も三役とは事前打合せを行う。		
課題点	新たな加入団体が無い。 団体内の高齢化。若い人の加入が無い。		

## 〔財源〕

人件費	独自財源	—
	共同募金	—
	委託料・補助金	○
	民間助成金	—
	その他	—

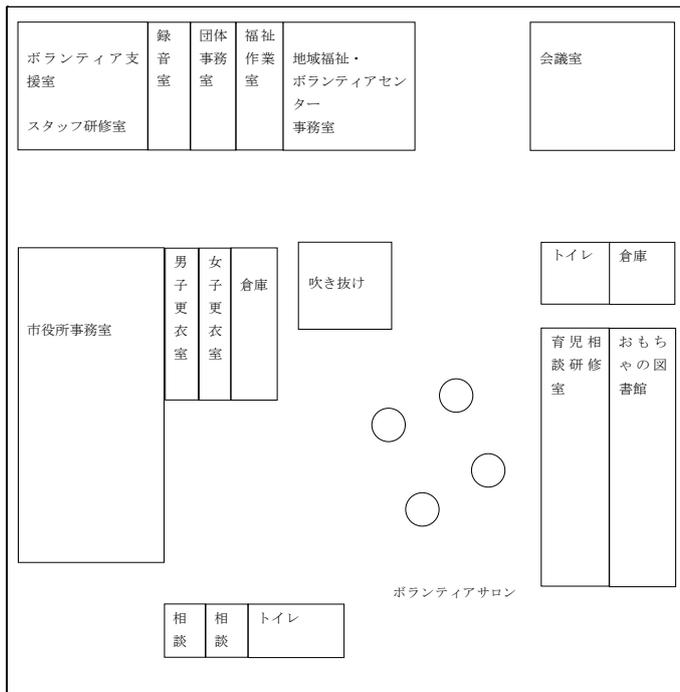
事業費	独自財源	○	社協会費収入
	共同募金	○	
	委託料・補助金	○	塩尻市委託金、塩尻市社協補助金
	民間助成金	—	
	その他	—	



〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	名称：地域福祉活動計画 内容：ボランティア普及啓発・研修・連携・支援、福祉教育
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
—	—
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
《強み》 センターが市街地にあり交通の便がよい。行政所有の施設内にあるため、行政と連携が取りやすい。	《弱み》 センターの独自性のPR不足

○VC見取り図



○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど ・ボランティアセンターの認知度をあげる工夫について
--

## ボランティアセンターの重点事業について

事業名	福祉教育
目的	子どもたちを対象に体験を通じて、福祉やボランティアを知ってもらうため。
開催頻度	各学校、各地域の希望に合わせて開催。(年間通じて)
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や先生方の希望を伺い、プログラムを作成・提供。センター職員が講師になる場合や地域住民の方に講師になっていただく場合があります。</li> <li>＜実施した内容＞</li> <li>・福祉・障害・ボランティアについての講話</li> <li>・体験講座（点字・手話・要約筆記・車イス・高齢者疑似・ユニバーサルデザイン・地区ボランティア・模擬マップ・フロアホッケー・防災講座等）</li> <li>・講話会（障害の理解、福祉の仕事について）</li> <li>・ホップ・ステップ・ボランティア体験講座</li> </ul>
対象者	塩尻市民
企画のポイント 事業成果	体験しながら福祉・ボランティアに触れてもらう事で、「楽しい・面白い」といったイメージの福祉・ボランティアを知っていただける機会とする。
参加者の声や その後の動き など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設に行く事だけがボランティアでない事を知った。</li> <li>・ちょボラ（ちょこっとボランティア）から始めて行きたい。</li> <li>・障害があっても、僕たちと変わらないと思った。すごいと思った。</li> <li>・手伝ってもらったり協力してもらったりは素敵だと思った。</li> <li>・面白かった。すごく勉強になった。</li> <li>・やった事がない体験を色々出来て良かったです。</li> <li>・いろいろなボランティアがある事を知った。</li> <li>・自分が出来る範囲で出来る事がある事を学んだ。</li> <li>・親子で理解を深めていきたい。</li> </ul>
事業の様子	

## 福祉教育



小中高校、または地域で。  
それぞれが学びたい事、考えたい事に合わせて、  
プログラム提供をしています

## ホップステップボランティア講座



手話・要約筆記・点字・朗読・読み聞かせ・特技  
様々なボランティアを体験していただく為に、ボ  
ランティアの方に講師になってもらい、スタンプ  
ラリーをしながりました。